

## 中日青葉学園で不審者対応訓練

# 声掛け、道具で安全守る

相模原市の障害者施設で十九人が死亡した殺傷事件を受け、日進市の児童福祉施設・中日青葉学園で二十日、不審者への対応訓練があつた。職員三十一人が参加し、不審者への声掛けや刺股を使った制圧の方法を学んだ。

(森若奈)

どして入所者十九人が死亡、二十四人が負傷した。青葉学園では三十九歳の約百人が生活し、発達障害がある子どももいる。

対応しようとせず、応援を呼ぶことなどを指導するための一・五尺の間合いを取ることや、一人で体に斜めに当てる効果的」と助言。不審者に障害者を狙った事件を防ぐため、訓練のひとこま。対応した職員は他の職員を呼び、刺股を使つた凶器を振り上げ、「何の用件ですか」と叫びながらの職員を呼び、刺股を使つた凶器を振り上げ、「うおー」と叫びながら職員が「ここに来られる襲いかかったー」。

青葉学園のホールに、黄色のパーカ姿の男がふらふらと入ってきた。園長が「ここに来られるのは初めてですか」と話す。これは、ロールプレーだ。刺股の使い方では「腰を押さえ付けた。

七月に相模原市の「津久井やまゆり園」で起きた事件では、職員三人が結束バンドで縛られるな

上訓練で、不審者役を刺股で制圧する職員たち下刺股はこのように体に斜めに当てる、取り押さえやすい=いずれも日進市の中日青葉学園で

が講師役になり、刃物を持った不審者から身を守るために一・五尺の間合いを取ることや、一人で声掛けや職員間での情報共有が大切だと感じた。



「犯人が逃げてもいい。大切なのは、児童も先生もけがをしないこと」と説明する三浦巡査長に、職員は熱心に耳を傾けた。

学園は職員の対応能力を高めるため、今後も訓練を続けていく予定。学園の防犯担当で主任指導員の龍栄貴さん(三毛)は「日頃からの訪問者への声掛けや職員間での情報共有が大切だと感じた」